

# まちひとしごと

Vol. 15

お菓子のふじい

代表 藤井 千晶さん

## 自身の楽しみをお客様の笑顔に



### 菓

子店の娘として生まれた藤井千晶さんは、お菓子のふじいの代表を務める。

俱知安で生まれ育った彼女は、幼少期からスキーに親しんでいたこともあり、高校卒業後、一度はスポーツ関係の専門学校に進学したものの、以前から好きだったお菓子作りを仕事として続けていきたいと考えようになり、その学校を半年ほどで辞め、製菓の専門学校に通うため上京した。東京での学生生活の中で、北陸地方でスキーインストラクターのアルバイトをしていた彼女は、ニセコの雪や環境の素晴らしさを現地でも知り合った仲間たちに教えられたことで、自身が生まれ育った故郷の「スキーの町」としての魅力に気づ

かされたという。

卒業後は、家業を継ぐことを決意し、そのために今自分がすべきことを考え、千歳市にある大手製菓工場に勤めながら自社の店舗や他有名菓子店などの現場に足を運び、菓子職人としての修業を積んだ。

「修行先では、プロの仕事の間近に見ることができました。それはとても貴重な経験で、新しいことを吸収できる喜びが大きかったですね」さらに彼女は、菓子作りの技術向上だけではなく経営についての勉強や異業種交流会の参加などから多くの刺激を受けたという。

「起業する人は、とても意欲的で勉強熱心です。家業を継ごうとする私は、ただ実家に帰るというのではなく自らが起業するようなモチベーションでいないと彼らには勝てないと思いました」

そして25歳で故郷に戻った彼女は、29歳という若さで1950年創業お菓子のふじいを三代目として受け継いだ。

彼女が代表となつてから、店内には手書きのポップやかわいらしいキャラクターのグッズが並ぶようになった。それらは自身が作成したものだという。和菓子職人として販売する製品を作り、支えてくれるご主人の存在があるからこそ自身は経営や店づくりに集中することができる。と彼女は話す。

「チラシやグッズを作ることは趣味のように楽しみながらやっています。こちらが楽しんでいる様子はお客様に伝わると思うし、仕事を楽しんでる人には敵わないと思うんです」

また、店の今後について、彼女はこう話している。

「店には、町外や外国人のお客様も多いのですが、自分らしさを失わずに、これからもお菓子のふじいにしかないことを追い求め、常に楽しみながら新しいことに挑戦し続けたいです」

店の代表であると同時に二児の母でもある藤井さん。先日、「うちはお菓子屋さんだ」と嬉しそうに友達に話すお子さんの姿を目にしたという。働く姿を一番近くで見ているお子さんたちにとって彼女は、みんなに自慢できるかっこいいお母さんのだろう。